

# 徳島子どもと教育

徳島県教職員の会



2020年  
3月4日  
No. 245

詳しくは  
Webへ

## 「1年単位の变形労働時間制」の導入スケジュールと 反対の具体的な取り組みについて

昨年末の臨時国会において、都道府県・政令市の条例により、公立学校に「1年単位の变形労働時間制」導入を可能にする「給特法一部改正法」が可決されました。

### ① 国会審議で確認された内容

国会審議で問題点が次々と指摘されました。そのなかで政府・文科省は、時間外勤務が月45時間・年360時間という「勤務時間上限ガイドライン」（法改定により「指針」に格上げ）が遵守されることが「制度導入の大前提」であり、「要件が遵守できない状況が生じた場合には……指定をとりやめることになる」と答弁しました。

条例制定、各学校への導入については、「まず、各学校でご検討いただいた上で、市町村教育委員会と相談をし、市町村教育委員会の意向を踏まえた都道府県教育委員会が……条例案を作成し、県議会成立の上、この条例に従って、学校の意向を踏まえ、市町村教育委員会が、導入する学校や具体的な導入の仕方……を決定する」としています。そして、仮に2021年度に制度を実施するためには、この手続きを2020年の年末までに行う必要があるとしています。

制度導入はあくまでも「選択肢の一つ」であり、条例を制定しないことも「選択肢として排除をしません」としています。また、「各学校の意向を踏まえずに……強制することはできない」、「学校のみなが嫌だというものを……動かすことは無理」などの答弁も引き出されています。

### ② 变形労働時間制の導入スケジュール

文科省は上記の答弁をしていますが、実際は、次のようなスケジュールで、強力に各教育委員会に变形労働時間制の導入を求めてくることが予想されます。

2020年6月議会又は9月議会で条例制定



条例制定後必要な規則等の整備



各学校で年間計画策定

2021年度から施行



2022年度 勤務実態調査



### ③ 導入反対の具体的な取り組み

文科省は、「各学校でご検討いただいた上で、市町村教育委員会と相談をし、市町村教育委員会の意向を踏まえた都道府県教育委員会が……条例案を作成」するとの立場を国会で明らかにしています。これに基づくと、県教委が6月県議会での条例制定をめざす場合、2020年度の新学期が始まるとすぐに各学校で教職員の意見を聴き、校長が市町村教委に各校の意見を伝え、その後、市町村教委が意見を県教委に伝えることになると考えられます。

こうしたなか、条例を制定させないために、また、仮に制定されてしまった場合においても、強制させず、学校に導入させないために、下記の取り組みが重要と考えています。ご協力の程、よろしくお願いします。

- ★ 各職場において、意見交換をしたり、「1年単位の变形労働時間制」導入に反対するよう校長に申し入れ（資料同封）をしたりする取り組みをお願いします。
- ★ 徳島県教職員の会としては、当面、下記のことを予定しています。
  - ①市町村の教育委員会に、制度導入を県教委に上申しないように要請
  - ②県教委に、条例を提案しないように要請
  - ③県議会に、条例を制定しないように請願

### ④ 变形労働時間制についての資料

变形労働時間制についての同封の資料をご参照ください。なお、この問題についての詳細な資料（国会審議内容、文科省の指針、指針に係るQ & A）もあります。ご希望の方は、(prote103@me.pikara.ne.jp) に請求するか、徳島県教職員の会のホームページ ([kyoushokuinnokai.net/index.php](https://www.kyoushokuinnokai.net/index.php)) からログインして「会員の部屋」に入ってください。

# 米ちゃんの楽しい授業③

## “学びにリアリティを感じられる”授業

米田恵子（公立小学校教諭・数学教育協議会四国地区委員長）

「…学ぶことと実生活との結びつきが薄く、学ぶことがよりよく生きることにつながるという実感が乏しい…学ぶ喜びを奪われている子ども、ここに日本の子どもの“学び”の根本問題があります。」という三上満氏の一節の『学ぶ』に『算数・数学を（学ぶ）』を加えると教室での実感にピッタリ一致します。学力低下キャンペーンの元、学力回復のためのドリル等を使用した反復学習が声高に唱えられるようになってから、さらに学びが現実世界から乖離したように感じます。この上、「全国学力調査」の実施が恒久化されれば、狭いテスト対応の学習に追われ、基礎・基本を大切にす豊かな学習がさらに遠のくことが危惧されます。

これは、私が「数学教室」誌2007年5月号に書いた原稿の一部です。2007年に43年ぶりに復活した全国学テを受けた6年生は、秋に結果を返却する時、「先生、もう僕たちこの問題全部解けるようになったけん、返してくれんでもええよ」と言いました。半年間学習を積んで、4月当初より賢くなったという実感があったからです。テスト対策の狭い・貧しい「覚えて解く勉強」ではなく、基礎・基本に手間と時間をかけた『豊かな学び』は、新たな問題に出会った時、それが解けるという見通しと自信を与えてくれます。

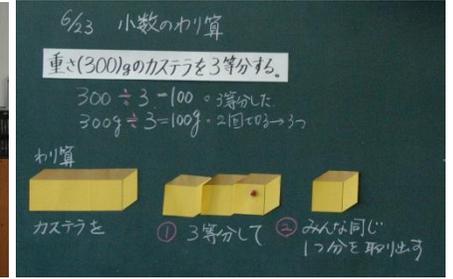
子ども達の多くは、文章で書かれた教科書やドリルの問題を読み、式を立て、計算して答えが出たら、正誤は教師や解答集に天下り的に判断してもらおうものだと思っていなんでしょうか。授業に実験を取り入れ、実験によって正誤を確かめる体験を積むことで、算数は机上の空論ではなく、現実の量を学んでいることを実感させることができます。

「わり算」で扱う量は、分離量÷分離量（12個を4人で分ける）、連続量÷分離量（600gの粘土を3人で分ける）、連続量÷連続量（180mを8秒で走るダチョウの速さ）…とだんだん広がっていきます。特に、わり算の意味は「連続量÷連続量（4年生の「小数÷整数」で学習）」から質的に変化します。わり算は、1あたり量を求める（乗除の第1用法）演算ということを式や数値と『身の回りの量』を結びながら理解できていないと、「単位あたり量（速さも）」や「割合」の学習は、覚えた公式に数字を入れて解くだけになります。今回は、実験や討論を大切にしながらクラスで創っていった授業を紹介します。

### 5年「小数のわり算 ～2009, 2011, 2012年度の実践から～」

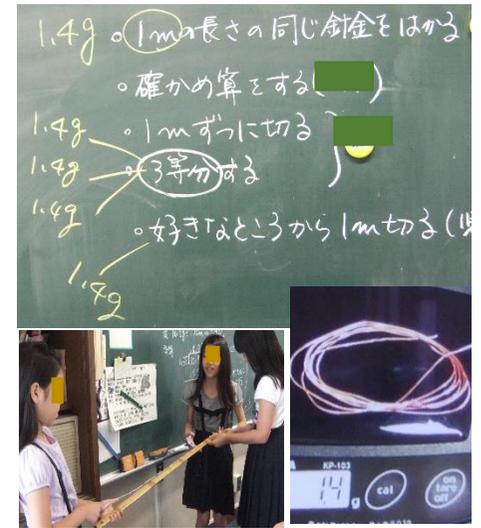
『ここに300gのカステラがあります。これを3等分する時の式は？』『 $300g \div 3$ です』 $300g \div 3$ と板書して、『じゃあ、これから包丁で切ります。先生が $300g \div 3$ をしたと思った瞬間に手を挙げてください』と言って、秤の上で切ると、3つに切り分けたところではとんどの子が手を挙げました。『今、 $\div 3$ をしたのですね』『はい』『じゃあ、黒板の式 $300g \div 3$ の答えを秤のめもりで読んでください』『300g』『この式の答えは、300gですね』と $=300g$ と板書する。「エーッ」「違う』『だって、今、 $\div 3$ したって言ったでしょ。だから、

答えは300g』…ざわつく中から、「1つつ重さを測ってください」という声が上がったので、1切ずつ重さを測ると、3つとも同じ100gでした。『じゃあ、 $300g \div 3$ って3つに切るん

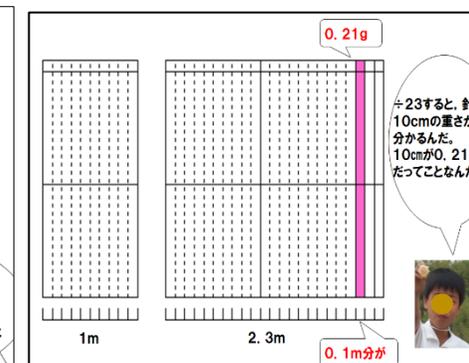
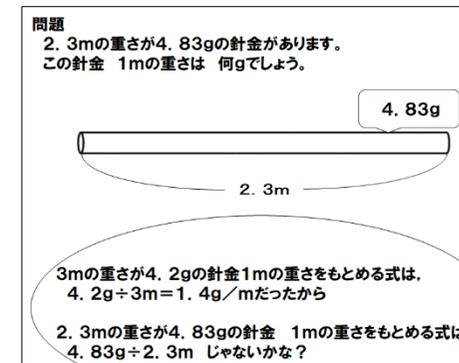


じゃなくて?』…「300gのカステラを3等分して、ひとつ分を取り出すこと』『そうだね。わり算というのは、等分して、どれも同じ1つ分を取り出すことですね』と確認しました。

次に針金を出し「ここに長さが3mの針金があります。重さは…（秤を投影機で映して）5.2gです。この針金1mの重さは何gでしょう」と発問します。『式は？』『 $5.2g \div 3m$ 』『4年生で習ったので計算できるよね。答えは？』『1.4g』、 $5.2g \div 3m = 1.4g$ と板書した後、確かめる実験方法を話し合いました。「3等分して3本とも重さを測る」「3等分して1本の重さを測る」「端から1m切り取って重さを測る」…話し合う中で、3等分しなくても、端から切り取らなくても、針金の好きな場所から1mだけ切り取って重さを測ればよいことが分かってきました。そこで、代表者が自由に切り取った1mの重さを測ると1.4g。「答えは、 $5.2g \div 3m = 1.4g/m$ と書きます。1mの重さが1.4gという意味です。ここで、1mあたりの重さ（1あたり量）を求める計算（演算）がわり算だと再定義すると、 $\div 2.3m$ や $\div 0.8L$ は1m分や1L分を求める式であることが分かります。



次は長さが2.3m、重さが4.83gの針金の1m分の重さを求めます。式は $4.83g \div 2.3m$ だと分かりますが、計算方法は分かりません。 $\div 23$ ならできるので、まず、 $4.83 \div 23$ を計算すると0.21です。この0.21が実際にはどんな量なのか考えました。 $2.3m \div 23$ をした0.1m（10cm）分の重さが0.21gだと気づけば、10倍すると1mの針金の重さが求まります。 $4.83 \div 2.3$ は、 $(4.83 \div 23) \times 10$ をすることです。それを筆算にまとめました。この考え方は、分子(23)でわって分母(10)をかける『分数のわり算』に発展します。



今回は分析して学んだ教科を発展学習でどう総合化していくかについて書く予定です。